

## V. 特記事項

### 保健・医療・福祉・スポーツ領域における専門職連携教育の重点化と研究拠点の形成

本学では「優れた QOL サポーターの育成」を建学の精神として表している。この「優れた QOL サポーターの育成」には、チーム医療と医療福祉連携教育が重要であるとの考えの下、開学以来「チーム医療と医療福祉連携教育」の重要性を主張し続け、平成 20(2008)年に当時の学長が発起人となり、「日本保健医療福祉連携学会」を設立した。その後、平成 21(2009)年には文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に連携教育をテーマとした課題「QOL 向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」で採択され、より一層チーム医療と多職種連携教育を充実させている。さらに、本学は 20 種以上の保健・医療・福祉・スポーツ関連専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士、救急救命士、診療放射線技師、管理栄養士、栄養士、看護師、保健師、助産師、保健体育教諭、アスレチックトレーナー、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、診療情報管理士、メディカルクラーク、養護教諭、栄養教諭等）を養成する課程を有しており、全国的にも数少ない大学の一つである。そのため、保健・医療・福祉・スポーツ領域において最も充実した多職種連携教育を実施することができ、かつ、連携教育プログラムを研究開発することができる点が大きな特徴である。

また、平成 22(2010)年度には学長のリーダーシップの下「新潟医療福祉大学将来計画機構」が設置され、中長期的な将来ビジョンを策定すると共に、全学協働で教育研究の質向上に取り組んでいる。その中で、建学の精神（優れた QOL サポーターの育成）をさらに推進するため、保健・医療・福祉・スポーツに関連した指導的な人材育成やチーム医療・多職種連携教育の推進だけに留まらず、「保健・医療・福祉・スポーツ領域を核としたアジアに秀でる研究拠点の形成」を将来ビジョンに掲げている。この将来ビジョンを具現化するため、まず、分野横断的な研究拠点として「運動機能医科学研究所」を設置した（平成 22(2010)年 11 月）。次に、平成 27(2015)年 8 月に全教職員を対象にしてアンケート調査を行い、学科・学部の枠を超えた分野横断的な研究を推進するため、「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点」の構築を目指すことを決定した。その結果、平成 29(2017)年度に文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点－Sports & Health for All in Niigata－」というテーマで採択されるに至っている。これらを通して、複数学科が連携して、細胞レベルの基礎研究や、ヒトを対象とした神経生理学的研究、スポーツ傷害予防・治療のための臨床研究、リハビリテーションに関連した治療法の研究開発を行い、非常に多くの研究成果を公表している。加えて、多職種が連携して、高齢者の介護予防・転倒予防に関連する研究や社会活動、アスリートの育成とアスリートサポートの実践（コンディショニング、栄養、看護、心理、傷害予防・治療）、障がい者スポーツに必要な義肢・装具の研究開発、学童に対するスポーツ普及活動なども精力的に行っている。つまり、細胞レベルの基礎研究から、ヒトを対象とした応用研究・臨床研究に発展させ、さらにその成果を、多職種が連携して対象者（子供、高齢者、障がい者、患者、競技者）に還元するためのサイクルを確立し、「保健・医療・福祉・スポーツ領域を核としたアジアに秀でる研究拠点」の基盤を形成しつつある点が本学の最大の特徴である。